放っておいて大丈夫？ 子どもの“発育”が早い！

専門医に聞きます!!
「思春期早発症」

仙台市立病院 小児科 部長
藤原　幾磨

Q 9歳の娘に最近、生理が始まり驚いてしまいました。
毎日元気に過ごしているのですが、このまま様子を見ていていいのでしょうか？
（9歳女の子のママ）

A 思春期に起こる兆候（二次性徴）が通常よりも早く起こる『**思春期早発症**』という疾患があります。

診断の目安となる症状は？

女の子の主な症状
- 7歳6カ月未満で乳房発育を認める
- 8歳未満で陰毛、わき毛が生える
- 10歳6カ月未満で初経がある

男の子の主な症状
- 9歳未満で精巣（睾丸）が発育する
- 10歳未満で陰毛が発育する
- 11歳未満でわき毛、ひげが生えたり、声変わりがみられる

参考：日本小児内分泌学会資料

上記のような症状があれば、思春期早発症を疑ってもいいと思います。

しかし、精巣や陰茎は徐々に大きくなるなど、二次性徴がいつ頃から始まったのか判断することは難しい面もあります。

どんなことが心配なのでしょうか？

将来的に低身長になる可能性も。本人のメンタルケアも大切です。

通常、小学校高学年から中学生にかけて身長がグーンと伸びることを成長スパートと呼びますが、思春期早発症では、このスパートが早い年齢で見られます。骨の成熟も促進されて骨年齢が進むことも少なくありません。そのため、骨の成長が早く止まり、最終的な成人身長が低めになってしまう可能性があります。

また、同年代の友だちよりも早く身体的変化が起こったことに対し、本人が不安やとまどいを感じる場合もあります。身近な大人によるケアで不安を取り除いてあげることが望ましいです。

なぜ二次性徴が早く起こるのですか？

さまざまな要因が考えられます。病気が隠れている場合もあるので注意が必要です。

いくつかの原因に分けられます

原因① ゴナドトロピンという脳からのシグナルが過剰に活動したため
原因② 腫瘍などによる性ホルモンの過剰分泌
原因③ 母親の思春期も早めだった、肥満傾向、出生時に早産だったなど「体質」によるもの

女児では原因①の場合が多く見られます。一方男児の場合、原因①である場合は約半数。精密検査でホルモン系における過剰の原因を探る必要があります。

治療は必要でしょうか？

状況に応じた判断を。そのためにも、本人、専門医とよく相談していきましょう。

原因となる疾患がある場合には、まずそちらの治療を行います。ゴナドトロピン過剰が原因の場合、治療することで二次性徴の進行、骨年齢の促進を抑えることが可能です。

しかし、治療は毎月の皮下注射になるため、お子さん本人の考えも十分に聞き、方針を決めた方がよいでしょう。それぞれの状況を踏まえながら、専門医とよく相談することが大切です。

お子さんを見て「もしかして？」と思ったら、まずは小児科で相談を。